

第3章 北陸における円墳の規模とその意義

田 島 富 慈 美

古墳時代の墓制を考えるうえで、前方後円墳とそれよりはるかに数の多い円墳は、最も重要な情報を与えてくれるものである。その規模一つをとりあげても、そこに葬られた人々の社会的地位を考える重要な手掛りとなるのは言うまでもなからう。

ただしこのような問題を具体的に明らかにするためには、墳形別、時期・地域別に古墳の規模を格付け、それが古墳の他の要素とどのような関係をもつかを検討しなければならない。

本稿は、立山町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室が、立山町浦田^{ちこづか}稚児塚古墳、同塚越^{つかこし}塚越古墳という大・中型円墳の測量調査を実施したことを契機として、北陸古墳時代の円墳の規模とその意義について検討を加えようとするものである。そして前方後円・前方後方墳と円墳との関係にもふれて、北陸における墓制の全体像を探る第一歩としたい。

1 円墳の規模と群別 (第11図・第1表)

まず北陸における、直径20m以上の円墳を集成した(第1表)。なおここには墳丘裾に小規模な張り出しを持つものを含んでいるが、本稿ではこれらを円墳として扱い、前方部基部に匹敵する施設をもつものを帆立貝式古墳と認定している。また墳丘の変形や発掘調査を実施していない古墳の規模をどのように扱うかのような困難な問題もあるが、これらの点に留意しつつ、できる限りの分析を加えたい。

集成した円墳は計146基を数え、これらは規模による群別が可能であると考えられる(第11図)。すなわち円墳の規模の集中度合いに着目すると、Ⅰa群：直径60m以上、Ⅰb群：45m以上60m未満、Ⅱa群：34m以上45m未満、Ⅱb群：20m以上34m未満、と4群に大別できる。このように古墳は規模が小さくなるほど数が増加し、ここではとりあげないが、より多く存在する直径20m未満の古墳をⅢ群とする。規模についてのみに見るならば、Ⅰ群が大型(Ⅰa群が特大、Ⅰb群が大型)Ⅱ群が中型(Ⅱa群が中大型、Ⅱb群が中小型)、そしてⅢ群が小型となろう。

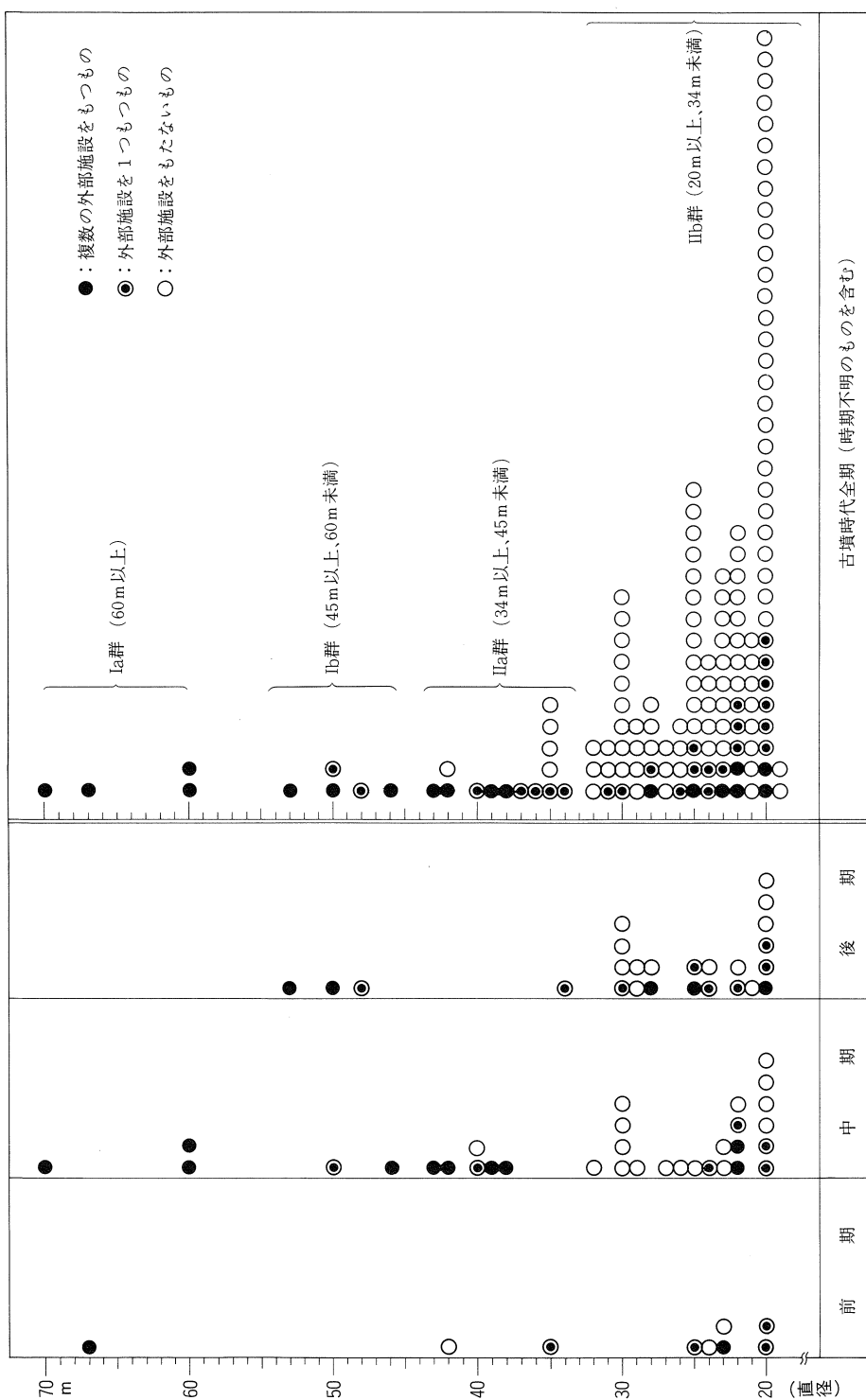
以上の各群について、周溝・段築・葺石・埴輪の樹立という4項目について、それらの有無を検討した(第11図)。その結果、Ⅰ群の大型円墳は、何らかの外部施設をもち、とくにⅠa群特大型円墳は、2種以上の外部施設をもつものが揃うことが判った。またⅡ群中型円墳は外部施設をもたないもののがかなりあり、Ⅱb群中小型の円墳では外部施設をもたないものが79.7%に達する。またⅢ群小型円墳は大多数のものが何らの外部施設ももたないであろう。

第1表 北陸古墳時代の円墳一覧

番号	古墳名	直径(m)	高さ(m)	立地	周溝	段築	葺石	埴輪	主体部	出土遺物	時期	調査の種類・年	所在地	
〔越中〕														
1	関野2号墳	29.5	3.2	丘陵先端	無	無	無	無	木棺直葬	鉄器・玉類・土師器	5c前半	発掘 1986 32	小矢部市石坂	
2	日中藤塚古墳	20	3.8	段丘上	無	無	無	無	堅穴式石室	鏡・剣・朱	中期	発掘 1964 28-31	中新川郡立山町日中	
3	国分山古墳群A墳	29.0	?	丘陵端	無	無	無	無	粘土櫛or木棺直葬	鏡・鉄器・玉類・土師器	5cか	発掘 1951 31	高岡市伏木国分字岩崎	
4	山王宮古墳群内1基	30	?	丘陵上	?	?	?	?	石室	須恵器	6cか	破壊後調査 1971 31	射水郡小杉町五歩一	
5	稚児塚古墳	46.2	7.3	扇状地端	有	?	有	有(伝)	?	埴輪(形象,伝)	?	測量 1988 28-31	中新川郡立山町稚児塚	
6	大塚古墳	35	5-6	丘陵縁辺	?	?	?	?	?	?	?	?	?	射水郡大門町市ノ井
7	塚越古墳	35	4	扇状地末端	無	無	無	無	?	無	?	測量 1987 28-29	中新川郡立山町塚越	
8	興法寺1号墳	30.0	5.2	台地状丘陵端	?	?	?	?	?	?	?	分調・測量 1982 35-54	小矢部市箕輪	
9	オオノントウ古墳	27.5	4.0	丘陵段丘上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977 10	高岡市高美町	
10	矢田上野1号墳	27.0	?	河岸段丘上	?	?	?	?	木炭櫛	?	?	発掘 1960 31	高岡市伏木国分字岩崎	
11	国分山古墳群G墳	24.0-28.0	?	丘陵端	有?	?	?	?	?	直刀	?	?	?	小矢部市桜町戸ヶ谷
12	屋波牧2号墳	25.0	4.0	丘陵尾根	?	?	?	?	?	?	?	分調 1979 10	富山市呉羽	
13	杉谷3番塚古墳	25	2.5	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	調査 1974 44	高岡市石堤字柏室	
14	石堤柏室2号墳	22-26	2.5	丘陵尾根	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1985 26	高岡市石堤字柏室	
15	後谷3号墳	20.0	2.0	丘陵尾根	?	?	?	?	?	?	?	分調 1979 10-35	小矢部市後谷	
16	後谷4号墳	20.0	2.0	丘陵尾根	?	?	?	?	?	?	?	分調 1979 10-35	小矢部市後谷	
17	屋波牧1号墳	20.0	3.0	丘陵尾根	?	?	?	?	?	?	?	分調 1979 10	小矢部市桜町戸ヶ谷	
〔能登〕														
18	小田中親王塚古墳	67(72堀立貝?)	14.5	低丘陵端の緩斜面	有	2段	有	無	堅穴式石室か	鏡・玉・鍬形石	4c末	測量 1929 12	鹿島郡鹿島町小田中	
19	テンジクダイラ1号墳	23-27	5.8	丘陵尾根頂	無	無	無	無	木棺直葬	鉄器・砥石	4c後-5c初	発掘 1977 7	鹿島郡鹿島町能登部上	
20	芝垣田山1号墳	21.5	2-2.5	段丘端	有	無	有	無	箱形石棺	鉄器・土師器	5c前半	発掘 1970 36	羽咋市芝田町	
21	滝大塚古墳	約70	?	海岸段丘末端	有	?	有	有	堅穴式石室	須恵器・埴輪(円筒)	5c前半	未調査・破壊	羽咋市滝町	
22	森本大塚古墳	38	5.5	丘陵末端緩斜面	?	?	有	有	?	埴輪(円筒)	5c中	測量 1964 37	羽咋郡押水町森本	
23	滝5号墳	約50	42	海岸段丘末端	有	?	有	有	石室	埴輪(円筒)	5c後半	略測 1962 15-36	羽咋市滝町	
24	矢田丸山古墳	42	7.5	緩斜面	有	?	有	有	?	埴輪(円筒)	5c末	測量 1969 34	七尾市矢田町	
25	芝垣観音山古墳	43	3.5	海岸段丘先端	有	無	有	有	?	須恵器・埴輪(円筒・形象)	5c末	発掘 1970 36	羽咋市芝田町	
26	水神寺1号墳	約20	2.0	丘陵尾根上	有	?	有	有	箱形石棺	鉄器・櫛	5c末	発掘 1952 25	珠洲市上戸町	
27	河原三つ子塚2号墳	38.9	6.5	丘陵尾根	?	?	有	?	?	埴輪(円筒)	5cか	分調・略測 1979 5	羽咋郡押水町河原	
28	宮ノ山古墳	42-32(復元53)	6	低台地端	有	3段か?	有	?	?	無	5c末-6cか	測量 1970 36	羽咋市柳田町	
29	滝6号墳	25(推定)	?	海岸段丘上	有?	?	有	有	?	須恵器・埴輪(円筒)	6c初	発掘 1979 15-36	羽咋市滝町	
30	滝2号墳	約20	2.5	海岸段丘末端	有	?	有	有	横穴式石室	須恵器・埴輪(円筒)	6c初	発掘 1970 15-36	羽咋市滝町	
31	散田鍋山古墳	29	3.5	低台地上	無	無	無	無	横穴式石室	馬具・玉類	6c前半	発掘 1927 4	羽咋郡志雄町散田	
32	散田金谷古墳	18.5-21	3.5	低台地上	無	無	無	無	横穴式石室	須恵器他	後期	試掘・測量 1973 4	羽咋郡志雄町散田	
33	能登部姫塚1号墳	約30(復元)	5	丘陵尾根	?	?	?	?	石室	玉類・須恵器	後期	分調・略測 1977 7	鹿島郡鹿島町能登部下	
34	矢田中瀬2号墳	29	3.2	?	?	?	?	?	横穴式石室	釘・須恵器・土師器	6cか	?	七尾市矢田町	
35	新宮丸山1号墳	約20	約3	丘陵端部	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1979 5	羽咋郡志雄町新宮	
36	河原三つ子塚3号墳	36.7	5.1	丘陵尾根	?	?	有	?	?	?	?	分調・略測 1979 5	羽咋郡押水町河原	
37	コツボネ1号墳	35	3-5.5	丘陵頂部	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977 7	鹿島郡鹿島町能登部下	
38	テンジクダイラ4号墳	35	6	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977 7	鹿島郡鹿島町能登部上	
39	テンジクダイラ5号墳	29-32	5	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977 17	鹿島郡鹿島町能登部上	
40	西馬場3号墳(南支)	27-34	1.5-6.0	段丘先端	?	?	有?	?	?	?	?	分調・略測 1985 7	鹿島郡鹿島町西馬場	
41	河原三つ子塚1号墳	27.5	5.2	丘陵尾根	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1979 5	羽咋郡押水町河原	
42	良川白良山古墳群A-6号墳	25.5-11.0	2.5-4.0	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1982 16	鹿島郡鳥屋町良川	
43	柳田うわの6号墳	25	?	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	略測?	1959 36	羽咋市柳田町
44	大槻B群8号墳	25(推定)	?	独立丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1976 1	鹿島郡鳥屋町末坂・大槻	
45	能登部冠塚古墳	20-30(推定)	?	平地	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977 7	鹿島郡鹿島町能登部上	
46	森の宮4号墳(南支)	23-25	2.5	丘陵尾根	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1985 17	鹿島郡鹿島町能登部森ノ宮	
47	良川北古墳群A-13号墳	24.0	5.0	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1982 16	鹿島郡鳥屋町良川	
48	四ツ塚1号墳	20-25	6	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	測量 1972 50-52	輪島市釜谷	

第1表のつづき

番号	古墳名	直径(m)	高さ(m)	立地	周溝	段築	基石	埴輪	主体部	出土遺物	時期	調査の種類・年	所在地
49	良川北古墳群A-9号墳	27.0-18.0	6.0	丘陵尾根頂部	有	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1982	鹿島郡島屋町良川
50	永禰寺5号墳	22	2.5	丘陵頂	有	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1975	珠洲市上戸町
51	大槻B群10号墳	22.0	5.0	独立丘陵端部	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1976	鹿島郡島屋町末坂・大槻
52	能登部姫塚3号墳	22	3	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	鹿島郡能西町能登部下
53	雨の宮35号墳	21.0	1-2	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1985	鹿島郡能西町雨の宮
54	河原三つ子塚5号墳	21	3.5	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調 略測 1979	羽咋郡押水町河原
55	良川白良山古墳群A-7号墳	13.0-21.0(推定)	2-4	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1982	鹿島郡島屋町良川
56	金谷7号墳	約20	?	低台地上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1979	羽咋郡志雄町散田
57	金谷8号墳	約20	?	低台地上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1979	羽咋郡志雄町散田
58	国造山古墳群C群No.26号墳	20.0	2.0	低丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1976	七尾市東三陸町
59	西馬場1号墳(雨支)	20	1	段丘先端	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1985	鹿島郡能西町西馬場
60	伏戸古墳	約20	約3	丘陵端部	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1979	七尾市町野町伏戸
61	町屋No.7号墳	約20.0	2.5	低丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1976	七尾市町野町
62	矢田天満宮古墳	約20	?	?	?	?	?	?	?	?	?	未調査	七尾市矢田町
(加賀)													
63	敷地平野山3号墳	20.0(推定)	?	丘陵斜面	有	無	無	無	?	土師器	前期	試掘 1983	加賀市大聖寺敷地町
64	野田山三角点古墳	42	2-3	山頂	無	?	?	?	?	?	4cか	測量 1978	金沢市長坂町
65	無常堂古墳	26	1.5	丘陵端部	無	無	無	無	木棺直葬	鉄器・玉類	中期初頃	発掘 1982	小松市埴田町
66	小坂1号墳	23.3-25	4-5	丘陵尾根頂部	無	無	無	無	木棺直葬	鉄器・玉製品・土師器	5c前半	発掘 1969	金沢市小坂町マノ部
67	和田山12号墳	18.5-20.5	2.7	丘陵上	有	?	?	?	木棺直葬	鉄器・土師器	5c後半-6c	発掘 1979	能美郡寺井町和田山
68	富塚丸山古墳	45-50.0(横立貝?)	8.5	緩斜面上	?	?	?	?	切石積横穴式石室か	鉄器・装身具・玉類・埴輪	5c後半-6c	分調・略測 1977	加賀市富塚町
69	和田山23号墳	22	3	丘陵上	有	無	無	無	?	須恵器	6c初	周溝調査 1977	能美郡寺井町和田山
70	和田山16号墳	28	4.5	丘陵上	有	無	無	無	横穴式石室	玉類・須恵器	6c前半	墳形調査 1979	能美郡寺井町和田山
71	和田山1号墳	24	5	丘陵上	有	無	無	無	木棺直葬	鉄器・玉類・土師器・須恵器	6c前半	発掘 1977	能美郡寺井町和田山
72	和田山3号墳	33.5	5	丘陵上	有	無	無	無	?	土師器	6cか	墳形調査 1977	能美郡寺井町和田山
73	月津茶臼山古墳	28.0	5	台地端	有	2段	?	?	?	須恵器	6cか	分調・略測 1977	能美郡寺井町和田山
74	松山1号墳	36.0	4.0	丘陵段線上	有	2段	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	小松市月津町
75	鉢伏西山古墳	32	5	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	加賀市松山町
76	小坂8号墳	約30.5	6.0	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	河北郡宇ノ気町鉢伏
77	御所ハツ塚1号墳	約27	4	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	略測 ?	金沢市小坂町
78	分枝チャカ山10号墳	25.0	4.0	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	金沢市御所町
79	神谷内5号墳	25	4	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	加賀市分校町
80	御所ハツ塚4号墳	25	4	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	金沢市神谷内町
81	和田山4号墳	27-23	1.8	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	金沢市御所町
82	おまる塚古墳	22-24	5	扇状地端微高地	有	?	無	無	?	土師器	?	試掘・測量 1977	金沢市河田・堀田
83	小坂3号墳	22.5	2.5	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	金沢市北塚町
84	敷地春日町8号墳	22.5	3.0-4.0	丘陵段線上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	金沢市小坂町
85	小菅波神社墓C古墳	22.0	6.0	丘陵段線上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	加賀市大聖寺春日町
86	坂坂C古墳群4号墳	21.7	1.3	台地斜面上	有?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	加賀市小菅波町
87	坂坂神明神社古墳群1号墳	21.5	3.0	丘陵頂部平坦面	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	加賀市坂坂町
88	坂坂A古墳群2号墳	18.5-22.5	3.0	丘陵段線上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	加賀市坂坂町
89	三ツ町A古墳群3号墳	21.0	3.0	丘陵端部	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	加賀市三ツ町
90	来丸2号墳	21	4.0	丘陵段線上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	加賀市三谷町
91	御所ハツ塚2号墳	約20(横立貝?)	2.5	丘陵端部	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1985	能美郡坂口町来丸
92	御所ハツ塚3号墳	約20	4	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	金沢市御所町
93	御所ハツ塚5号墳	20	4	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	金沢市御所町
94	御所ハツ塚5号墳	20	4	丘陵上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	金沢市御所町
95	才田御亭山古墳	20	5	平地	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	金沢市才田町
96	錦町古墳	20.0	5.0	丘陵端部近く	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1977	加賀市大聖寺錦町
97	野間神社裏9号墳	20	3	丘陵尾根上	?	?	?	?	?	?	?	分調・略測 1978	金沢市御所町



第11図 北陸における円墳の規模と外部施設 (周溝, 段築, 葺石, 埴輪)

外部施設の種類については全体の中で周溝を備えるものが19.2%とやや多いのに対し、段築・葺石・埴輪は7～8%台と低い。これをⅠa群～Ⅱb群の群別でみるならば、Ⅰa群が周溝・段築・葺石各75%、埴輪25%、Ⅰb群が周溝60%、段築・埴輪各40%、葺石20%、Ⅱa群は埴輪35.7%、周溝・葺石各28.6%、段築7.1%、Ⅱb群は周溝14.6%、段築・葺石・埴輪各4.1%である。Ⅰa群～Ⅱa群まではある程度外部施設を備えているが、Ⅱb群では周溝を除いてはほとんど外部施設がみられなくなっている。なおこれら4項目の外部施設を全て備える円墳は北陸では確認できない。3項目備えるものについては、石川県鹿島郡小田中親王塚古墳、同羽咋市滝大塚古墳、同滝6号墳、同柴垣観音山古墳がある(第1表)。以上のことから北陸では外部施設の整う円墳は数少なく、かつその分布は能登に多いという傾向をうかがえる。

このように規模から抽出した群別は、外部施設の在り方の違いとかなり密接な関係があり、一定の意味をもつと考える。なお墳丘の高さ、埋葬施設、副葬品についても同様の分析が必要であるのは勿論であるが、Ⅲ群小型円墳も含めて別稿で検討したい。

2 時期・地域別の規模(第12・13図)

前項で、北陸古墳時代の円墳を一括して群別したが、それは時期・地域別の特色を記述するのに際して、その前に北陸全体の概観が先ず必要と考えたからである。その上でここでは全体の年代的な変化をみた後に地域毎の様相を検討することにしよう。

古墳時代前期には、直径20m以上の大・中型円墳は数が少なく、特にⅠa群特大型円墳は直径67mの石川県鹿島郡小田中親王塚古墳が知られるのみである。この古墳からは、日本海岸における三角縁神獣鏡分布の東限となる三神三獣鏡が出土して、その独特の地位を物語っている。

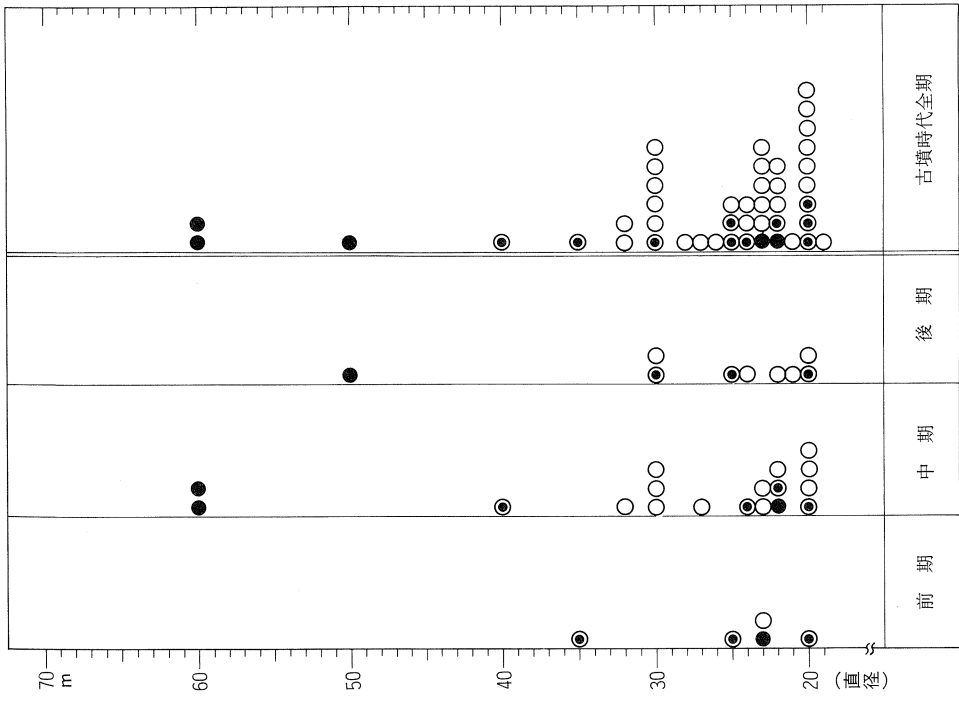
中期には、大・中型円墳の築造数が急激に増し、時期の判るⅠ群大型円墳のうち6割は中期に属している。特にⅠa群特大型円墳についてみると前期の一例を除いて、すべてこの時期のものである。またⅡa群中大型の円墳も7割が中期に築造されている。

後期には、Ⅰ群大型円墳の築造数が減少し、かつⅠa群特大型円墳は知られていない。またⅡ群中型円墳も増加しているとはいえず、Ⅱa群中大型の円墳が減少した。他方これと軌を一にしてⅢ群小型円墳が著しく増加し、中期までとは異なる様相が生じてきている。

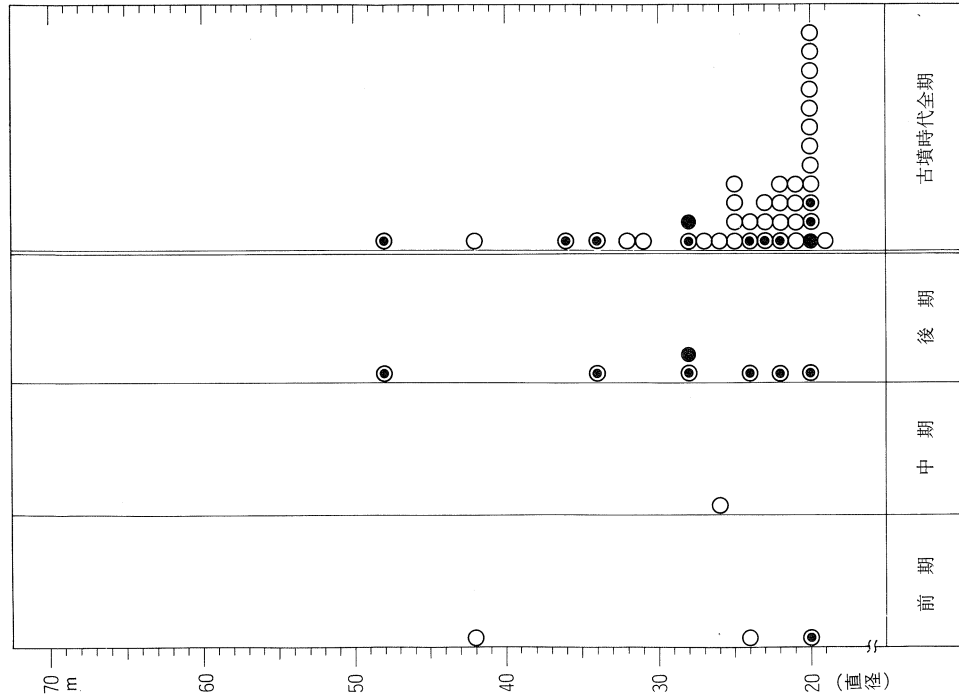
次にこれらの点について、旧国別に検討を加えることにしよう。

若狭・越前：若狭7・越前37古墳をとりあげる(第12図右)。Ⅰa群特大型円墳は両者に1基ずつあり、Ⅰb群大型円墳は3基確認できる。時期別にみると、北陸全体と同じく前期に少数の円墳を築き、中期には大規模なものが築造されて数が増す。また後期には全体的に規模が縮小してその数も減少していく。次に外部施設についてみると、複数の外部施設を持つものは全体の約1割、単数のものは約2割を占める。またⅠ群は全て複数の外部施設を持つが、Ⅱ群は外部施設を持つものが約3割である。

加賀：計40基を確認し得る(第12図左)。Ⅰa群特大型円墳はみあたらず、Ⅰb群大型円墳1



若狭・越前



加賀

第12図 若狭・越前・加賀の円墳の規模と外部施設

基、Ⅱ群中型円墳39基である。時期については不明のものが多く前期から中期に築造数が減少し、なかでも大規模な円墳は前期と後期に築造されている。外部施設についても不明なものが多いが、最大規模の富塚丸山古墳は唯一埴輪を備え、Ⅱ群は周溝を備えるものが多い。

能登：計44基をとりあげる(第13図右)。その内容はⅠa群特大型円墳2基、Ⅰb群大型円墳2基、Ⅱa群中大型円墳7基、Ⅱb群中小型円墳33基であり、Ⅱa群大型円墳のなかでも大型のものは当地域に多い。時期別にみると、前期にⅠa群特大型円墳が1基築造されているが、全体として中期になるとⅠ群大型円墳、Ⅱa群中大型円墳が増加する。後期にはⅠb群大型円墳1基を除いたⅠ群大型円墳、Ⅱa群中大型円墳も築造されず、Ⅱb群中小型円墳が増加している。外部施設については、複数の外部施設を持つものが全体の約2割、単数が約1割であり、北陸の他地域と比較すると複数の外部施設を備えるものが多く、その傾向は周溝・葺石・埴輪に多くみられる。

越中：現在のところ直径20m以上の円墳は17基確認し得る(第13図左)。このうちⅠa群特大型円墳は確認できず、富山県立山町稚児塚古墳が最大、同塚越古墳は2番目の規模である。時期については不明のものが多く、大・中型の円墳はおもに中期に築造されるようである。後期の様相についてはまだ十分な資料が得られていない。同じく外部施設もほとんどが不明であるが、稚児塚古墳が複数の外部施設を持つ唯一の古墳である。

このように北陸の直径20m以上の円墳を、時期・規模・外部施設の点から地域別に比較・検討してきたが以下でこれらの点についてまとめておきたい。

今回北陸における直径20m以上の円墳146基をとりあげた。これらを地域ごとに比較するとⅠa群特大型円墳は分布が能登に2基、若狭・越前に各1基とかなり限られており、規模も他と比較して特に突出していることが判った。これらは前期の一例を除いて中期に築かれている。またⅠb群大型円墳は北陸全体に分布するが、Ⅰa群特大型円墳を確認できない越中・加賀においては最大規模のものとなる。そして若狭・越前・能登においてもこれらはⅠa群特大型円墳に次ぐグループをなすことを確認し得る。またⅠb群大型円墳は中・後期に築かれているが、後期にはこれが最大の円墳となっている。Ⅱ群中型円墳は北陸各地で築造されるが、なかでも規模が大きく外部施設の整ったものは能登に多いといえる。後期においてⅡa群中大型円墳が減少し、Ⅱb群中小型円墳が主となることは、Ⅰa群特大型円墳とⅠb群大型円墳の関係と一致し、Ⅰ群とⅡ群の大別に意味のあることを示していると考えられる。

3 前方後円・前方後方墳と円墳

次に北陸の前方後円・前方後方墳の変遷を地域ごとに概観し、円墳の変化と対比したい。

若狭・越前：若狭では确实な前期の前方後円墳は確認されていないが、三角縁神獣鏡が2例出土している。中期に入ると、福井県上中町上之塚古墳(全長90m余、周溝・段築・葺石・埴輪を備える)⁽³⁾⁽⁶⁾などの大型前方後円墳が築造され、中期後半から後期にかけては大型前方後円墳

の築造がみられるが後期前半には築造されなくなる。越前では古墳時代前期には福井県福井市安保山1号墳(全長約32m)⁵⁸、同2号墳(全長約34m)⁵⁹が築造されるが、これらは外部施設を有していない。前期後半には福井県松岡町手操ヶ城山古墳(全長約110m、段築・葺石・埴輪を備える)⁶⁰が築造され、その後も越前では北陸最大級の前方後円墳が継続して築造されている。これらの古墳は外部施設も整い、畿内色の濃いものが多い。後期に入るとその規模は縮小し、福井県金津町神奈備山古墳(全長約74m)⁶¹を最後に築造を終える。

加賀：現在のところ古墳時代前期の確実な大型前方後円墳は確認されていないが、石川県加賀市吸坂D-13号墳(全長68.3m)⁶²、大型前方後方墳では同吸坂A-3号墳(全長61.0m)⁶³にその可能性があることを田嶋明人氏に教示いただいた。中期になると石川県寺井町秋常茶臼山1号墳(全長約105m、葺石を備える)⁶⁴が加賀南部で、北部では同金沢市長坂二子塚古墳(全長54m、埴輪をもつ)⁶⁵が築造される。その後、中期後半から後期にかけて各地で前方後円墳が築造されるが、後期前半には一部の地域を除いて築造を終える。

能登：古墳時代前期初頭から前方後方墳の築造が盛んであり、特に⁶⁶邑知地溝帯を中心として石川県鹿西町雨の宮1号墳(全長約70m、段築・葺石を有する)⁶⁷のような大型のものが知られている。前方後方墳は中期に同鳥屋町川田ソウ山1号墳(全長45m)⁶⁸が築造されるが、その後は姿を消す。

一方、大型の前方後円墳は雨の宮1号墳と同時期頃と考え得る石川県鹿西町雨の宮2号墳(全長約70m、段築・葺石を備える)⁶⁹の築造が最初であり、その後前方後円墳は一たん築造されなくなるが中期後半から能登の各所で多く築造され、後期中頃にはその築造を終える。

越中：前方後円・前方後方墳の確認数は北陸の中では少なく、その規模も小さい。古墳時代前期には、前方後円墳は富山県小矢部市谷内16号墳(全長約47m)⁷⁰、同関野1号墳(全長約65m、段築を備える)⁷¹、同高岡市桜谷1号墳(全長約62m)⁷²、同婦中町勅使塚古墳(全長75m、段築を備える)⁷³がある。前方後方墳では同婦中町王塚古墳(全長約62m)⁷⁴があり、これらは越中最大級のものである。しかし中期に入ると、前方後円・前方後方墳の築造は目立たなくなり、前方後円墳の富山県富山市古沢塚山古墳(全長約41m)⁷⁵がその可能性を持つものとして挙げ得るのみである。中期末～後期初頭の頃再び同小矢部市若宮古墳(全長約48m、埴輪を備える)⁷⁶、同氷見市朝日長山古墳(全長約43m、埴輪を備える)⁷⁷といった前方後円墳が築造される。

以上の前方後円・前方後方墳の変遷をまとめると、次のようになるであろう。

古墳時代前期には、北陸において広く前方後円・前方後方墳を築くが、その中でも、能登に古くから規模の大きなものが存在し、越中にも最古期から本格的な前方後円墳が築造される。

中期には、若狭・越前・加賀南部において、前期よりも巨大な前方後円墳を築造する一方で、能登・越中においては、前方後円墳は減少を見る。この2地域では中期の終りになって、再び前方後円墳を築造した。

後期に至ると、北陸各地を通じて前方後円墳は小型化して減少し、後期後半(6世紀後半)

にはその築造を停止したらしい。

本稿で検討した円墳の動向と、前方後円・前方後方墳の変化の関係は、以下のように理解したい。

北陸において、前期から中期にかけて、若狭・越前では継続して前方後円墳と大・中型円墳を営むが、加賀と能登・越中は対照的な歩みをたどる。能登・越中においては、中期になると、前方後円・前方後方墳が衰退する一方で、大・中型円墳が増加する。逆に加賀においては、中期に前方後円墳を多数築造し、大・中型円墳は目立たない。

中期末の変化（能登・越中における前方後円墳の復活）をへて後期に至ると、北陸を通じて前方後円墳の築造が少なくなっていく。そして、Ⅰ群大型円墳、Ⅱ群中型円墳に加えて、多数のⅢ群小型円墳が築かれた。またⅠ群、Ⅱ群ともに、その中に大小の別があったものが、Ⅰb群大型円墳と、Ⅱb群中小型円墳に整理されてくることに注目したい。その結果、大・中・小型円墳の規模の差がより明確に表現されるようになってきた。この段階では格差の表現が前方後円墳と円墳ではなく、円墳の規模の差に重点を移してきたように見える。

結 び

古墳の築造には多大な労働力を必要とするため、古墳の規模がそこに葬られた人、あるいはその後継者の力や社会的地位を表わしていることは疑えない。ただしこの点を具体的に明らかにするためには、時期・地域毎に、墓制の全体像を把握しなければならないであろう。

本稿では、円墳の規模とその意義が、古墳時代前・中・後期と三期区分にそう形で、変化しているという結果を得た。

すなわち前期には、北陸各地において、前方後円・前方後方墳が築かれる一方で、若干数の大・中型円墳が併行して築かれた。それに対して中期には、前方後円墳が築かれる地域（若狭・越前・加賀）と、大・中型円墳が盛行する地域（能登・越中）とに分かれるようになってきた。後期には前方後円墳が衰退するとともに、大・中・小型円墳が主流となる。このように同規模の円墳の被葬者の位置づけも、時期と地域によって異なってくるであろう。

おそらくは社会的地位の表現において、前期は前方後円・前方後方墳の規模の差が重要であり、中期を転機として後期には円墳の規模の差をより重視するようになってきたものと推察したい。その結果、墳墓に身分の上下を表わす階層が飛躍的に増加している。これを大化薄葬令にみるような古代の墓制に至る一つの過程と考えることも可能であろう。

最後に富山県立山町稚児塚古墳と同塚越古墳とについてふり返ってみたい。これらは未調査であるが、中期のものと推測することが許されるならば、古墳時代前期から中期へかけての大きな政治的变化を反映している可能性が高い。

先に示したように古墳時代前期には越中西部において相当数の前方後円・前方後方墳が築かれる。それに対して中期には円墳が主流となり、かつ越中最大の円墳である稚児塚古墳と第2

位の塚越古墳が越中東部に位置することになる。これら2古墳の立地する常願寺川扇状地扇端部は、弥生中期以後、開発が進んでいたところであり、その変化の背景はおそらくは政治的なものであったろう。

古墳時代中期の政治体制について、都出比呂志氏は、小野山節氏の古墳規制論^⑤をふまえて、ある首長は抑えて帆立貝式古墳や円墳を築かせ、特定の首長にてこ入れして前方後円墳の築造を許す方式があったことを示している。私達が測量調査を実施した2古墳は、このような政策が、北陸東部にまで及んでいたことを示していると考えたい。またこの新たに円墳を営むようになった地方の中においても、政治構造の変化があった可能性が高く、これらの円墳に示される施策が次の群集墳を生む母胎となった可能性のあることを指摘して、今後の調査の進展を待ちたい。

【注】

- ① 石川考古学研究会「鳥屋・高階古墳群分布調査報告―石川県主要古墳群分布調査報告第1年度―」『石川考古学研究会々誌』第20号、1977年。
- ② 石川考古学研究会「江沼古墳群分布調査報告―石川県主要古墳群分布調査報告第2年度―」『石川考古学研究会会誌』第21号、1978年。
- ③ 石川考古学研究会「北加賀地域古墳群分布調査報告―石川県主要古墳群分布調査報告第3年度―」『石川考古学研究会会誌』第22号、1979年。
- ④ 石川考古学研究会『能登散田金谷古墳』1978年。
- ⑤ 石川県立埋蔵文化財センター『県内遺跡群詳細分布調査報告書Ⅰ(昭和54・55年度)』1984年。
- ⑥ 石川県立埋蔵文化財センター『県内遺跡群詳細分布調査報告書Ⅱ(昭和56―59年度)』1985年。
- ⑦ 石川県鹿西町教育委員会『雨の宮古墳群の調査(テンジクダイラ1号墳発掘調査報告)』1978年。
- ⑧ 宇ノ気町史編纂委員会編『石川県宇ノ気町史』1970年。
- ⑨ 大野市教育委員会『山ヶ鼻古墳群』大野市文化財調査報告第1冊、1980年。
- ⑩ 小矢部教育委員会・小矢部市埋蔵文化財分布調査団『小矢部市遺跡地図台帳』1985年。
- ⑪ 加賀市教育委員会『敷地平野山古墳群―詳細分布調査報告書―』加賀市埋蔵文化財調査報告第21集、1984年。
- ⑫ 鹿島町教育委員会「鹿島町の考古資料」『鹿島町史』資料編(続)上巻、1972年。
- ⑬ 金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財調査委員会『おまる塚古墳測量調査報告書・笠舞A遺跡分布調査略報』金沢市文化財紀要16、1978年。
- ⑭ 金沢大学考古学研究会『金沢大学考古学研究会活動報告第4号―能美地域の古墳群と梯川流域―』1986年。
- ⑮ 河村好光「滝古墳群」『石川考古学研究会会誌』第24号、1981年。
- ⑯ 唐川明史「鳥屋町北古墳群を中心とする分布調査報告」『石川考古学研究会会誌』第27号、1984年。
- ⑰ 唐川明史「石川県鹿西町内における古墳群分布調査報告―西馬場古墳群・森の宮古墳群・鷹王山古墳群―」『石川考古学研究会会誌』第29号、1986年。
- ⑱ 小松市立博物館『埋れていた郷土の古代―最近の調査の成果―』1984年。
- ⑲ 斎藤優『足羽山の古墳』1960年。
- ⑳ 斎藤優他『福井県鯖江市王山・長泉寺山古墳群』福井県教育委員会、1966年。

- ②① 斎藤優『越前鯖江 天神山古墳群』1973年。
- ②② 斎藤優『若狭上中町の古墳』1970年。
- ②③ 鯖江市教育委員会『西山古墳群』1987年。
- ②④ 志賀町教育委員会「志賀町の考古資料」『志賀町史』資料編第1巻別冊，1974年。
- ②⑤ 珠洲市史編纂専門委員会『珠洲市史』第1巻資料編 自然・考古・古代，1976年。
- ②⑥ 高岡市教育委員会『富山県高岡市西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅱ』1986年。
- ②⑦ 田鶴浜町史編纂委員会編『田鶴浜町史』1974年。
- ②⑧ 立山町『立山町史』上巻，1977年。
- ②⑨ 立山町教育委員会『立山町埋蔵文化財調査報告Ⅲ』1988年。
- ③⑩ 寺井町教育委員会『和田山・末寺山古墳群環境整備事業報告書』1983年。
- ③⑪ 富山県『富山県史』考古編，1972年。
- ③⑫ 富山大学人文学部考古学研究室『関野古墳群』富山大学考古学研究報告第1冊，1987年。
- ③⑬ 中司照世「古墳時代」『図説 発掘が語る日本史』第3巻 東海・北陸編，1986年。
- ③⑭ 七尾市史編纂委員会編『七尾市史』1974年。
- ③⑮ 西井龍儀「若宮古墳とその周辺の遺跡について」『かんとりい』No 7，1983年。
- ③⑯ 羽咋市史編纂委員会編『羽咋市史』原始・古代編，1973年。
- ③⑰ 橋本澄夫「石川県押水町森本大塚古墳の予備調査―葦石と埴輪を有する墳丘装飾の一例―」『石川考古学研究会会誌』第10号，1966年。
- ③⑱ 福井県『福井県史』資料編13考古，1986年。
- ③⑲ 福井県教育委員会『文化財調査報告第17集』1967年。
- ④⑩ 福井県教育委員会『太田山古墳群』北陸自動車道関係遺跡調査報告書第8集，1976年。
- ④⑪ 福井県教育委員会・古代学協会『福井市宿布古墳群』1985年。
- ④⑫ 福井考古学会『福井考古学会会報』第9号，1985年。
- ④⑬ 福井市教育委員会『中山2号墳・三十八社3号墳』1987年。
- ④⑭ 藤田富士夫『富山』日本の古代遺跡13，1983年。
- ④⑮ 文化庁文化財保護部『全国遺跡地図―石川県―』1976年。
- ④⑯ 文化庁文化財保護部『全国遺跡地図―富山県―』1974年。
- ④⑰ 文化庁文化財保護部『全国遺跡地図―福井県―』1980年。
- ④⑱ 松岡古墳群を守る会『松岡古墳群の埴輪』1982年。
- ④⑲ 松岡町教育委員会『改訂 松岡古墳群』1979年。
- ⑤⑩ 谷内尾晋司「輪島市釜屋谷四ツ塚古墳群」『石川考古学研究会会誌』第16号，1973年。
- ⑤⑪ 吉岡康暢「金沢市小坂1号墳の調査」『石川考古学研究会会誌』第13号，1970年。
- ⑤⑫ 輪島市史編纂委員会『輪島市史』資料編第3巻，1974年。
- ⑤⑬ 小野山節「五世紀における古墳の規制」『考古学研究』第63巻第3号，1970年。
- ⑤⑭ 小矢部市教育委員会・小矢部市埋蔵文化財分布調査団『小矢部市埋蔵文化財分布調査概報Ⅳ』小矢部市埋蔵文化財調査報告書第12冊，1983年。
- ⑤⑮ 小矢部市教育委員会・小矢部市古墳発掘調査団『若宮古墳』小矢部市埋蔵文化財調査報告書第18冊，1986年。
- ⑤⑯ 都出比呂志「古墳時代」『向日市史』上巻，京都府向日市，1983年。
- ⑤⑰ 富山大学人文学部考古学研究室『谷内16号古墳』富山大学考古学研究報告第2冊，1988年。